

行雲流水

No.166 令和4年2月18日発行

最後まで走りきる

校長 寒河江 正人

生徒諸君、**3学期期末テストおつかれさん。**

これまで蓄えた力を答案用紙に向かって、精一杯出し切れたかな？

さて、来月の今日は「**卒業証書授与式**」も済んでいる。

3学期は、もう**あと1ヶ月**を切った。

君たちの慣れ親しんだ教室を見回してみよう。

「**神町中学校〇年〇組という船**」に乗り、ともにオールを漕いできた仲間たち。

このメンバーで過ごす期間は、残りあとわずか。

**時には、けんかをしたり、仲違いする日もあったかもしれないが、
支え、励ましてくれた、かけがえのない仲間**に心から深く感謝したい。

夢中で突っ走っているうちは、ぐっとふんばれるのに

「ああ、ここまでくれば、もう大丈夫だろう。」なんて思った途端に
不思議と、それまでの集中力が切れ、するっと力が抜けてしまうものだ。

でも、まだまだ、この船は「着くべき港（ゴール）」が見えていない。

3年生たち受験生は、**3月10日の入試**を目指し、必死にがんばっているではないか。

2年生も、1年生も、**進級に向けて準備・成長**しているではないか。

懸命に**オールを漕ぐ手**は、ゆるめられないぞ。

マラソンでも、ゴールの手前で座り込んで投げ出してしまったら、

それまで走った距離・積み上げた道のりは、記録されない。

「自分の足」で、「自分のスピード」でいいから、「自分のゴール」までは、走りきりたい。

「**私たちの人生**」の中では、そういうことがたくさんあるのではないかな？

きっと、誰しも、**これまでもたくさんあった**のではないかな？

「**あと一步の努力**」をしなかったために、人生の後悔はしたくない。

目の前にいる**大切な仲間のために**、そして、**自分自身の誇り**にかけて、

最後まで、あと一步、あと一步、ふんばって走りきろう！！